

全国 長南会 通信 70号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX 029-887-3190

発行日 : 令和 03 年 11 月 20 日

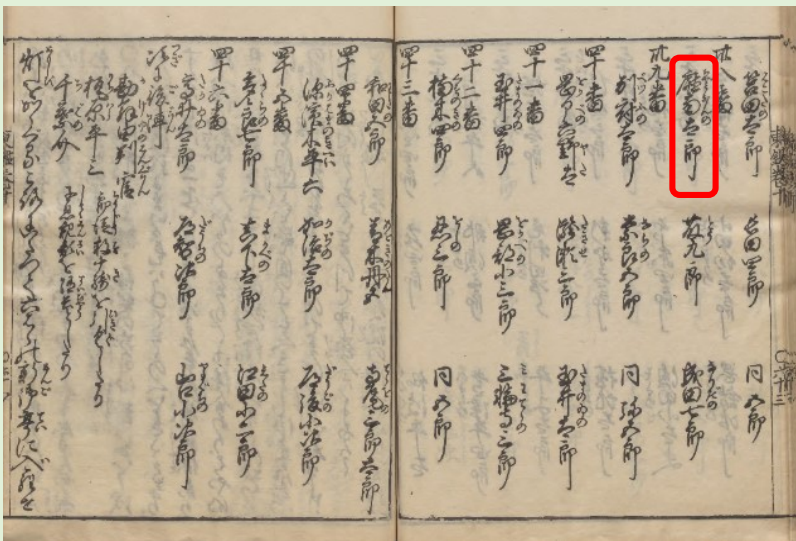
武蔵国での参陣と領土取得状況からの考察

江南 正

治承 4 年 (1180 年)

坂東各地では新知行国主の平氏家人や平氏方目代により旧知行国主系の豪族達が圧迫されていた。頼朝が挙兵した場合旧知行国主系豪族に有利な上総介廣常の配下にあ

った事から上総氏の一部族として 治承 4 年 9 月 (1180 年) 武蔵国で参陣し鎌倉入りをする。



『吾妻鏡』 第十卷原文 庁南太郎

『広常の弟にあたる印東常義系の一族によって支配されたものとみられ、印東氏の一族は安貞年間 (1227~1228) 以降、郷土付近に土着したものである (成東町真行寺・山辺進家文書)。印東常義には重常・頼常・師常・常政の諸子がいるが、常重は長南太郎と称して上総庁南庄 (長生郡長南町) に土着し、長南・米満・多名氣 (棚

毛)の庶流に分れている。また、四郎師常の系統は武射郡南々郷 (成東町南部一帯) に土着、南郷氏を称して ^{むさのみくりや} 武射御厨を掌握している。

成東古城の造営者として伝承される「印東四郎入道」は、南郷四郎を称した印東師常であるものと推定される。

さらに、七郎常政は戸田氏を称しているので、古和郷内戸田村 (山武町戸田付近) を ^{みょうじ} 苗字の地としたものであろう

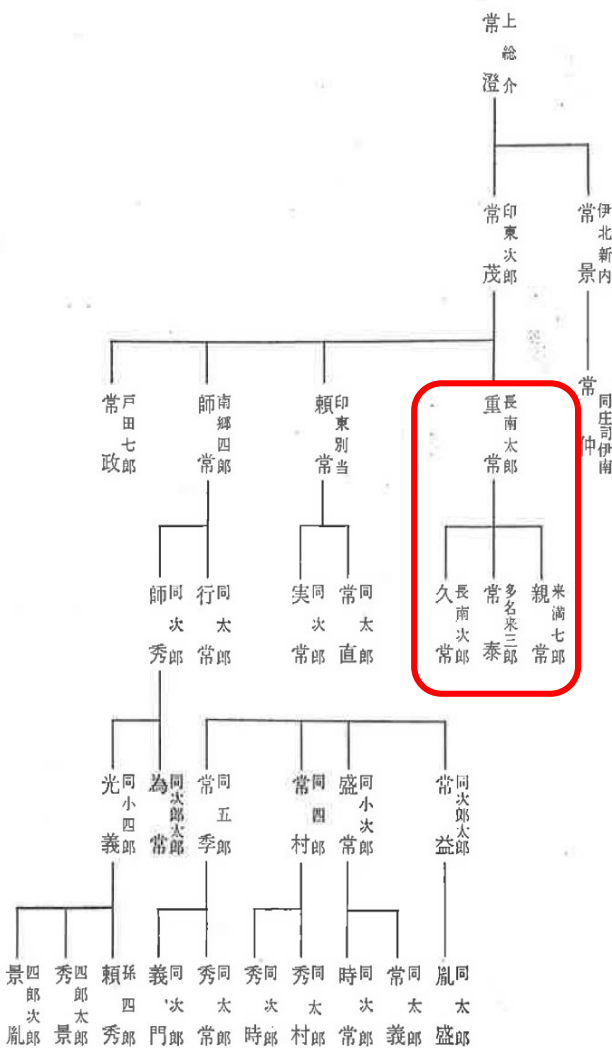
(『成東町史』中世編)。

常重ではなく重常の転記に『長南太郎重常、印東別当頼常、南郷四郎師常、戸田七郎常政』

ちょうなんまち

庁南町 は、千葉県長生郡 (上埴生郡) にかつて存在した町である。現在の長南町の中部に位置している事から庁南太郎と長南太郎重常は同一人物と思われる。

(神代本千葉系図ニヨル)



『長南太郎重常の子久常を長南次郎といい、常泰を多名来三郎といったが、多名来は現在の長南町棚毛の地である。次の親常は、来満七郎を称しているが、来満は蔵持で長南町蔵持の地、和名抄の車持郷である。』

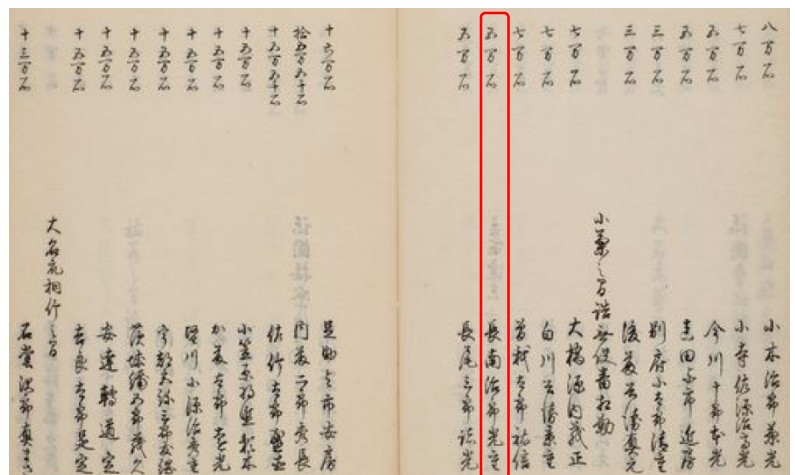
また常茂の四子師常は南郷四郎と称した。南郷は埴生郡の南郷で、野見金山の南東にあたり、いまの長南町水沼の隣りである。

次の常政を戸田七郎という。戸田は現在、市原郡南総町戸田の地で、それぞれ帽称の地に居住していたことが推考される。』

長南太郎重常の領地はその3人の子、長南次郎久常、多名来三郎常泰、来満七郎親常に受け継がれるが、その他この重常の領地の中に故中村先生『故土肥謙堂氏の長南氏事蹟考』の資料より長南七郎忠清の領地が含まれている事を考えれば長南太郎重常の親族か家臣であった事が伺える。

鎌倉時代分限帳に長南次郎光重が登場するが、久常の別名？

この分限帳には40万石～百石の約278名の名前があるが長南七郎忠春、長南七郎忠清の名前は出て来ない。あるとするならば、故中村先生が云う地名を冠して長南氏を号した分限帳にある1万石以下の誰か？



私個人図書館に横断検索したものもあるが念の為名張市立図書館を経て各地の図書館に依頼した内容です。

レファレンス受付票

2014年3月9日受付

ご質問内容

鎌倉武鑑に 長南忠清が問注所に勤めていたという記述がある。もしくは鎌倉武鑑以外でも長南氏について記述のあるもの。

1. 以前 鎌倉武鑑 初篇について 国立国会図書館に調査依頼・・・記述見当たらず
2. 2篇を所蔵されている 神奈川県立図書館に調査依頼・・・・記述見当たらず
同じく 2篇を所蔵されている 豊橋市立図書館に依頼
記述見当たらず。また 鎌倉武鑑を翻刻したものが『改訂増補 大武鑑 上』に所収されている。
その中にも長南氏に関する記述は見当たらず
ここまで 報告済みです。

その後調べたこと

「問注所」について記載のあるもの

1. 鎌倉史跡事典 奥富敬之 新人物往来社 (111664686) p.288
問注所 政所・侍所と並ぶ鎌倉幕府の三大官衙の一。訴訟裁判関係の事務を主管する。長官を執事といい、初代三善康信(法名善信)以降、その子孫の町野・太田両家が世襲。他に寄人(よりゆうど)若干がいた。
元暦元年(1184)10月20日大倉御所東側の「廂二ヶ間」を問注所とし、「問注所」と書いた額を打った。執事は三善善信、寄人は藤原俊兼・平盛時ら・・・(中略)・・・p.289 2段目1行 同四年(承元四年 1208)中原親能の家人中原仲業が寄人に新加。建暦元年(1211)正月十日、橘三藏人惟広が寄人に新加。

長南氏についての記述はなし。

2. 「古事類苑 官位部2」(110074010) p.753~761

問注所の項あり 問注所について書いてある史料と その部分を抜き書きしてあります。

下記の通り 元の史料もご覧いただけます。

- 「吾妻鏡」(『国史大系 24』(130055007)~27)
- 「関東評定伝」(『群書類従 4 補任部』(130062300))
- 「沙汰未練書」(『続群書類聚 25 武家部』(130063456))
- 「庭訓往来」(『続群書類従 13下 文筆部・消息部』(130062755))
- 「新御式目」(『続群書類従 23下 武家部』(130063381))
- 「武家名目抄」(『武家名目抄 第一』(130055569))
- 「問注所家譜」(インターネット(東大史料データベース)で見ることができます。)

問注所執事・執事代・寄人について記述あるも長南氏の記述はなし

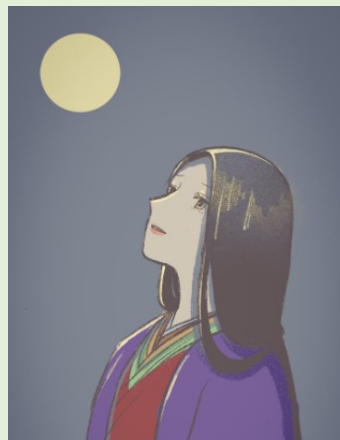
(結論) 問注所につとめていた人として 執事は三善善信、寄人は藤原俊兼・平盛時・中原仲業・橘三藏人惟広などが見つかるが長南氏については確認できませんでした。

三重県 名張市

鼓城（妙見山庁南城）は治承元年（1177）上総氏より分れた平常成が埴生郡坂本郷（千葉県長生郡長南町坂本中城）に築城し、これに拠って坂本庁南氏と称し、宝治合戦で滅亡するまでは坂本庁南氏4代70年間の居城であった。この宝治合戦（宝治元年1247）の時寄手鎌倉幕府軍の大將ははぶぐんかわえのごう埴生郡河家郷・長南町給田・地引地区の主、時の執権北条時頼の側近に仕える菅原姓長南常忠と嫡男の若武者小次郎忠宗であった。この河家長南氏と坂本庁南氏は共に千葉氏の外戚として交り深い上に、河家長南氏の忠宗と坂本庁南氏の娘で鼓の名手と噂高い玉日姫とは許婚の仲であったが、討つも討たれるも武門の掟と忠宗が本丸に突入した時すでに遅く、花嫁衣裳を纏った玉日姫をはじめ城主一族が悉く自害していた。余りの哀れさに忠宗は玉日姫のなきがら亡骸を城の裏山に葬った後、出家して世を捨てたという。この悲劇の城は忠宗の父常忠が新たに城主となって間もなく、月夜の頃ともなると何かを訴えるかのような鼓の音が聞こえてくると噂され、いつの間にか鼓城と称されるようになった。常忠の子孫達はこの地方特産の紅花の改良生産に力を注いだので、上総長南紅花の名声は天下に喧伝

され、鼓城はこうかじょう紅花城とも称された。長南氏8代213年間の居城であった鼓城（飯縄山長南城も、康正11年（1456）1月19日、前の関東管領古河公方足利成氏の臣武田信長（甲斐武田一族の大軍に攻撃されて力及ばず、長南氏は城を明け渡して隣国安房の里見氏の下に走った。上総国の大半を押領した信長は、鼓城を孫の道信に与えて庁南武田氏13万石の主としたが、栄枯盛衰恒ならず、天正19年（1591）この秋、ついに廃城となって朽ち果てた。正に「夏草や つわものどもが 夢の跡」である。

—長南氏口伝書に拠る—



長南氏と庁南氏

庁南氏が滅んだあとの庁南城に長南氏が替わって入城し、ちょうなん地方の新しい主となった、という混乱して判らなくなってしまう。

庁南氏と長南氏は、庁と長の一字が違うだけで読みは“ちょうなん”なので、戸惑うのは無理もない。その上日本に族子家系研究の大先達である太田亮博士が50年もかけた一大労作「姓氏家系大辞典」にも

長南 上総国長柄郡長南庄より起こる

庁南 上総国長柄郡庁南の庄より起こる。

又長南に作る

桓武平氏上総族。東鑑、治承5年9月「上総權ノ介広常、東国周東、周西、伊南、伊北、庁南、庁北の輩2万騎を率いて参上す」と。その後、室町内書案に「長南主計介」あり。この族か？中興系図も長南姓を平姓とす。」としてあることから、長い間これらの書をもって姓氏家系研究の聖典なりとして、長南氏と庁南氏は同一氏族なりとして、些も疑問を抱かなかつたのも当然であろう。（船本音羽「幻の豪族長南氏」引用）

茂原市出身の郷土史家林天然氏がその著「長生郷土漫録」の中の宍南氏の項で「. . . この他、時代を異にして長南七郎なるものがあった. . . 」と説かれていた。

長南氏宗家に古くから伝わる系図、家譜等の古書によると、菅原道真の11子善智麿（滋殖）はその兄で上総介としてこの国に

赴任した菅原淑茂の（道真の10男）に庇護の下に埴生郡に入植し、紅花等の生産に力を注ぎ、相当な勢力を持つようになった。そこで長柄郡の南部の主となったとの謂れを持って長南氏となった。承平2年（932）の事である。

地名における「長南」と「宍南」

「長南」とは長柄郡を南北に二分して俗称した場合の南半分の名で、長北に対応する地名である。そしておそく菅原善智麿が土着した頃から用いられるようになった。「宍南」とは、千葉氏出身の一族が、この地に住むようになって、在来の長南氏

と区別するため宍南を以て姓としてから、地名にも用いられるようになり、後に同様この地に入った武田氏もこれを踏襲したものである。従って、宍南氏が興った1177年より以前のことを記述した史料が宍南を用いている場合は誤りである。

氏名における「長南」と「宍南」

「長南」を用いる菅原氏出身の一族自身は10世紀以降この字を用いている。但し一時的には「宍南」とした時代もあるようであるが、安房時代以降は「長南」のみを用いている。

これに対し「宍南氏」は千葉氏出身の一族が用いた姓である。この区別は、両族の

発生からみて明らかであったが、文献などでは混用された傾向もないではなかったし、さらに後世になって入った武田氏も武田に冠して両方を用いたように、きわめて混乱してしまったものである。

菅原姓長南氏と千葉姓宍南氏

この二族についてみると、長南氏は当初は開拓者として土着した人たちであったが、時代が変るにつれて、武器をもって戦うことも辞さず、勇武の者も出たが、周囲の武士団を攻撃したり、併呑したりするような実力も欲望もなく、逆に支配者として乗り込んできた千葉姓宍南氏などの勢力下に在って、代々永らえてきたのである。従って千葉氏と長南氏とは縁組みも頻繁に行ったらしく、一時は殆ど名実共に同族の観があったから、長南氏も表立って菅原を用いる必要もなく、時には宍南姓を用いて以て平家の末孫であるとしたのではないかと考えられるふしがある。

千葉氏が亡びたあとは、それまでとは逆に千葉の一族即ち平家であるということは表には出さず、長南氏の始祖は菅原氏であるという本来の事実を表面に出して、源氏の出である里見氏と共に世を過してきたので現在まで長南氏は平家、菅原家両方に関係があるというように伝えられてきたのであると解するのが妥当であろう。

宍南氏200年、千葉氏560年、宍南武田氏225年、里見氏175年といずれも房総の地に名を成した氏族が比較的短期間に興りそして亡びていった中であって、長南氏は幸いにも10世紀から現在まで1000余年の命脈を保ったのである。

浦戸諸島訪問

地域蒼生舎 HIDDEN 濱田健司 田邊孝顕

先日、寒風沢にて長南和泉守のお墓で手を合わせてまいりました。また、長南昭子様からは、寒風沢の農業のお話なども聞くことができました。おかげ様で、大変実りある旅行になりました。

当日は曇りでしたが、星空も見れて、とても気持ちがよかったです。今度は牡蠣のシーズンに訪れたいですね。寒風沢の現状は観光客が大分減っているのか、宿泊客が珍しがられましたが、島民の方は皆さまでも元気そうでした。

潮陽館の隣の空き地には、ちょっとした公園？もできました。寒風沢や桂島のステイションや、本土側の寺院などでも離島の環境を使った体験活動が少しずつ再開しているようで、このままコロナが落ち着いてくれればと思っております。

また寒風沢のお話など共有させてください。

今後とも宜しくお願い致します。

地域蒼生舎 HIDDEN

代表

濱田 健司



寒風沢の昭子さんとお会いしました。とても丁寧な方で、快適な一晚を過ごすことができました。

島の様子ですが、桂島はシャワー室の設置、小さな公園の造園など、初めて訪れた2018年時の姿とはかけ離れておりました。その変化に濱田と驚いておりました。

野々島は波止場前の工事が完了しておりました。ゆうに自動車が数十台は止まれるほどの敷地が現れていました。

一方で、寒風沢島は特に変わってるところがありませんでした。これは感想になりますが、住んでる人が少ない印象を受けました。

それでも、寒風沢島に宿泊したのは初めてだったがゆえに、盲点だった問題を肌で感じることができました。これからの解決すべき課題の一つとして行動できたらと思っています。

さて、私田邊はまもなく海外に行ってしまうのですが、遠隔でも塩釜には携わるつもりです。

しばらくの対面はかないませんが、お力になれることがありましたら喜んで対応させていただきます。

そして嬉しいことに、コロナも徐々に下火になってきました。もちろん油断はできませんが、秀則さまもお気をつけてお過ごし下さい。

また、長南会の方々と、昭子さんにもよろしくお伝えください。

どうか、お元気でいらしてください。

地域蒼生舎 HIDDEN

代表理事

田邊 孝顕



2020年10月20日
聖火リレー ライブストリーミング 読み上げ版

20日(金) 東京 10月20日(Fri) Tokyo	8月21日(土) 東京 Aug. 21 (Sat) Tokyo	8月22日(日) 東京 Aug. 22 (Sun) Tokyo	きょう 東京 Aug. 23 (Mon) Tokyo	8月24日(火) 東京 Aug. 24 (Tue) Tokyo
--------------------------------------	--	--	-------------------------------------	--

お知らせ 【ただいまリレー中】府中市の区間を走行予定だったみなさん



長南氏の研究を読んで、先祖に対する尊敬や感謝の気持ちが強くなりました。

家系図の一番下に自分の名前を確認してからは、この命は先祖が一生懸命つないでくれたものだと思うようになりました。

自分の屋号である「御朱走(ゴシュラン)」という名前で聖火ランナーになれたのは先祖の応援あつてのことだと思っています。これからも松島および松島湾の地域活性のため活動してまいります。

空にいらっしゃる中村先生、長南氏の研究を遺して下さってありがとうございます！

ヨガサークルシャンティ松島
 鈴木(旧姓・長南)由美子
 ヨガ&ジョギングインストラクター

収支報告 2021/01/01~2021/10/31

摘要	収入	支出
会費	232,000	
雑収入	1,000	
受取利息	5	
和泉守墓管理費		70,000
長南会通信印刷代		22,145
長南会通信発送代		27,386
旅費交通費		61,134
通信費		12,446
接待交際費		19,000
事務用品費		11,546
雑費		8,066
合計	233,005	231,723

現金	42,128
普通預金	575,396
当座預金	2,162
残高	619,686

前期繰越	618,404
収入	233,005
支出	231,723
残高	619,686

会費ありがとうございました

2021/07/11~2021/10/31

7/26 茨城県 長南武	12,000円
8/23 福島県 長南信夫	2,000円



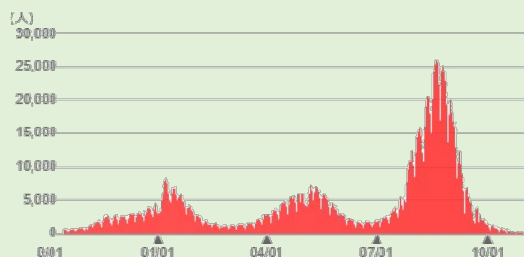
コロナウイルス感染症 (COVID-19)

日本国内での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は2020年、4月の第1波に始まり、2021年初めに第3波、5月の第4波、そして7~8月の第5波と続き、波の高さ(感染者の多さ)は、どんどん大きくなっている。今後、先進国を中心に2~3年で収束する国が出てくるものの、世界的な収束まで3~5年はかかるだろうと予測されている。

ワクチン開発によって、その接種率が高まることにより、収束時期が早まるかに見えるが、「変異ウイルス」が次々と発生し、まだまだ収束の手掛かりがつかめない状況は続くと思われる。日本国内では10月初めから現時点までの感染者の状況は抑えられているように見えるが、その原因が正確につかめていないため、未だ予断を許さない状況となっている。

ワクチン接種率は、全人口で約73%だが、集団免疫を獲得するために、未接種者へのワクチン接種や3回目接種を進める必要がある。

それでは、今後自分が感染しないように気を付ける対策はというと、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、といった場面でも感染が起きやすく、



注意が必要だ。

当初から言われているように、新型コロナウイルス感染症は、3密(密閉・密集・密接)の環境で感染リスクが高まる。感染対策としては、一つの密でも避けて「ゼロ密」を目指すことだそう。

コロナ疲れによる閉塞感や、企業業績の悪化などによる経済への打撃を避けるために、感染拡大は続くものの、ワクチン接種が進むと重症者・死亡者の割合が減ることから、どこかで政治的判断により経済活動の制限に見切りをつけることも必要になってくる。

第6波が来ると、これまで以上の感染者を発生させられると思われる。これについては第6波が来ないことを祈るしかないが、今まで通り一人一人ができることを実行して、自分が感染しないように心がけることが大切だ。

芸術というべき雪の積もる夜
大隊の野営の地なり鴨の陣
あまりにも見事な氷柱や氷鏡
霜柱いつまで耐ゆる朝の白に
白鳥が水面を走り鳥雲に
冬波をもろともせずサーファーら



「菅相丞の梅」より
長南俊春

良い年をお迎えください



今年もお世話になりました
令和3年も残り少なくなりました
寒くなりますので体に気を付けて
年末年始をお過ごしください

来年もよろしく
お願いします

